

きがるにワーク 読む 役立つ

かほく ワークシート

旧中浜小で元校長の井上さん(左)の体験を聞く学生ら



河北新報の記事を題材に、学校や家庭で学ぶためのワークシートです。宮城県内の小中高校の教員や教員経験者が出題します。

旧中浜小の教訓胸に刻む

山元教員目指す大学生訪問

東日本大震災の教訓を学ぶ研修の一環で、全国の教育系大学4校の学生らが17日、津波で被災した山元町の旧中浜小を訪問した。当時、児童らを避難誘導した元校長の体験を聞き、日常の備えや緊急時の判断の重要性への理解を深めた。

教員を目指す学生らに防災意識を高めてもらおうと宮城教育大(仙台市青葉区)が企画した。同大と東京学

芸大、大阪教育大、福岡教育大の計16人が参加。2階天井近くまで浸水し、震災遺構として整備が進む校舎の外観を見学した。

震災時の校長井上剛さん(62)が学生らを案内。想定していた避難先ではなく屋上に児童ら約90人を避難させた際の状況を振り返った。井上さんは「津波の到達予測時間が早く、厳しい判断を迫られた」と話し、「子どもの命を守るため、

指示待ちでなく自分から周りを引っ張る意識を持つてほしい」と呼び掛けた。

福岡教育大3年井上翔子さん(21)は「九州でも地震や豪雨災害が続いている。教員として何を大事にすべきか、改めて学ぶことができた」と話した。

宮教大は震災後、各地の教育系大学に参加を呼び掛け、県内の被害状況の視察や、被災地の学校での学習ボランティアなどを定期的に行っている。

(2020年2月24日河北新報朝刊)

仙台市では「故郷復興プロジェクト」として、市内の全小中学生が折った8万8000羽の折り鶴を仙台七夕に飾ります。私の学校ではその七夕飾りを再生した紙「仙臺七夕祈織」を6年生の卒業証書に使い、防災への思いを深めます。未来の子どもたちを育てる未来の先生たちも、新たな学びとして向き合ってもらいたいと考えています。

(日本新聞協会NIEアドバイザー・仙台市高砂小校長 中辻正樹)

出題者から

問題

- ①旧中浜小を訪問したのはどこの大学の学生ですか？
()
- ②旧中浜小は東日本大震災でどのような被害を受けましたか？
()
- ③当時の校長の井上剛さんはどうやって児童を避難させましたか？
()
- ④井上さんは学生に何を呼び掛けましたか？
()

(小学校高学年以上／総合的な学習の時間)

※「かほくワークシート」は「河北新報オンラインニュース」からダウンロードし、A4判に印刷できます。模範解答も載っています。

3月8日こども新聞かほくワークシート模範解答

- ① 旧中浜小を訪問したのは、どこの大学の学生ですか？
（ 宮城教育大、東京学芸大、大阪教育大、福岡教育大 ）
- ② 旧中浜小は東日本大震災の時に、どのような被害を受けましたか？
（ 2階天井近くまで浸水した、校舎は使えなくなった ）
- ③ 当時の校長である井上さんは、どのように児童を避難させましたか？
（ 想定していた避難先ではなく、屋上に児童ら約90人を避難させた ）
- ④ 井上さんは、どのようなことを学生に呼び掛けましたか？
（ 子どもの命を守るため、指示待ちでなく自分から周りを引っ張る意識を持ってほしい ）